

清浦学説に反論発表

水俣病

熊大世良、内田教授

研究法にまず疑点

医学的な常識を欠く

熊本大学特別研究班の世良医学部長（金髪）と同医学部生化学教室の内田助教授は、十六年後熊本県庁で記者団と会見、さきに東大の清浦教授が水俣病の原因として発表した「魚肉のタンパクが自己消化するに生ずる毒物」を激しく反駁し、医学的にナンセンスであるを明らかにするとともに、清浦教授に科学者としての反省を求めた。とくに、さる土日に開かれた経済企画庁の水俣病総合調査研究協議会に出席、清浦教授を直接問いただした内田教授は「清浦学説」が取るにたらないものであると強く、次のような点をあげて反論した。

①清浦教授の研究法は最初から誤り、これを動物の胃腸内と同じ状態にある。水俣の魚貝を煮沸乾燥した状態で試験管のなかで消化分解



清浦説に反論発表する内田教授（左）と世良教授（右）

したというが、第一胃腸内と同じ状態など作れるはずはないし、それに熱を加えたものは自己消化（細胞によるものでなく、もともと生体のなかにあるタンパク質を分解する作用で、とくに死後よく働く現象、カタマンという酵素の働きによるもの）を行なうことができない。したがってこれは明らかに腐敗によるもので、簡単な医学常識である。

②清浦教授は毒物をアルコールや水で抽出できるといふが、実はアルコールや水では抽出できない部分で水俣病が起つてゐる。しかも清浦教授の実験はすでに熊本でも初期の段階で関係のないことが証明済みのものである。

このように清浦説は医学常識ないし科学的操作の上からいってもナンセンスなもので、抽出した物質を水俣病と簡単に結びつけようとしているところに決定的な不備がある一ときめつけた。

さらに同教授は清浦教授の「水俣病で水俣病が起るのはおかしい」という主張にふれ、「もし乾熱イリコ（の自己消化で起る）すれば、それこそなせ

偽でとれたイリコでは起らないのか。市販のイリコは全部起るはずだ。また古い魚や中途半端な煮干しで起るのなら、当然山間地の方が起るべきではないか。水俣病が起るのにはおかしいという清浦教授の主張は自己矛盾ではないか」とまぎしく批判した。

なお熊本研究班は十八日から久留米市で開く精神神経学会のシンポジウムの席上、清浦教授への反論と三年間におよぶ同班の研究成果（中間報告）を明らかにする。◇世良世良の語、清浦説がナンセンスであることはいふまでもないが、同氏が有機水銀説は誤りだと宣い、世間をまどわしているのを、あえて熊大の研究が正しいことを明らかにすることに、同氏は東大教授陣と研究班をつくって熊大の誤った決定

を叩き潰しているが、現に東大側から清浦教授とは面識もないと否定する手紙をもらっている。科学者としての良心を疑わざるを得ない。